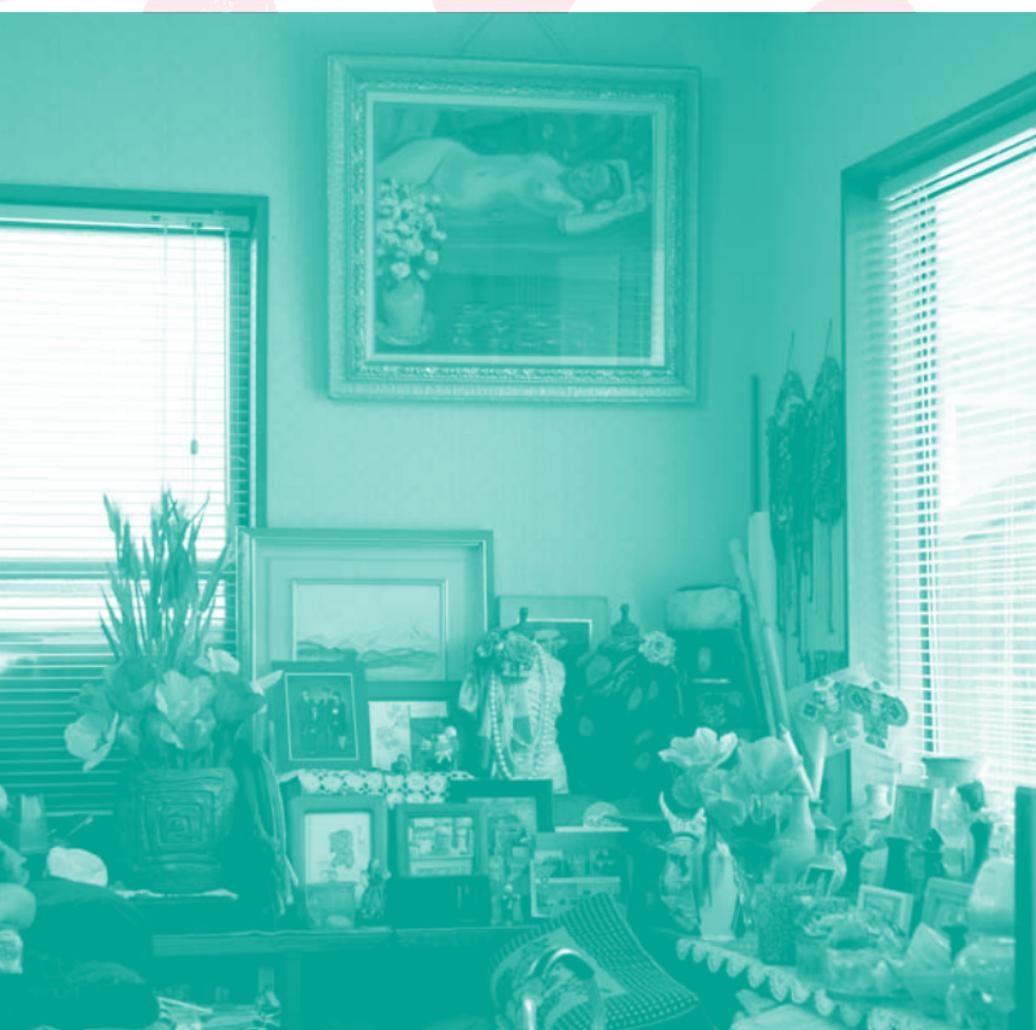


季 刊

生 活

創 刊 号



Quarterly: SEIKATSU 1

Issue: Private

生活工房
Lifestyle Design Center

特 集

プ ラ イ ベ ー ト

2019

4・5・6

「生活工房 イベントガイド」が
生まれかわりました。

日常の暮らしから
時空を超えた人類の学びまで
さまざまな生活のありようと
暮らしにまつわる文化やデザインをテーマに
展覧会やワークショップを行っており
生活工房。

「季刊 生活」では
生活工房のイベント情報とヒモに
毎号、企画に関連するテーマをとりあげ
インタビューやコラムなどを通じて
生活工房の視点を多面的に
伝えていきます。

もくじ

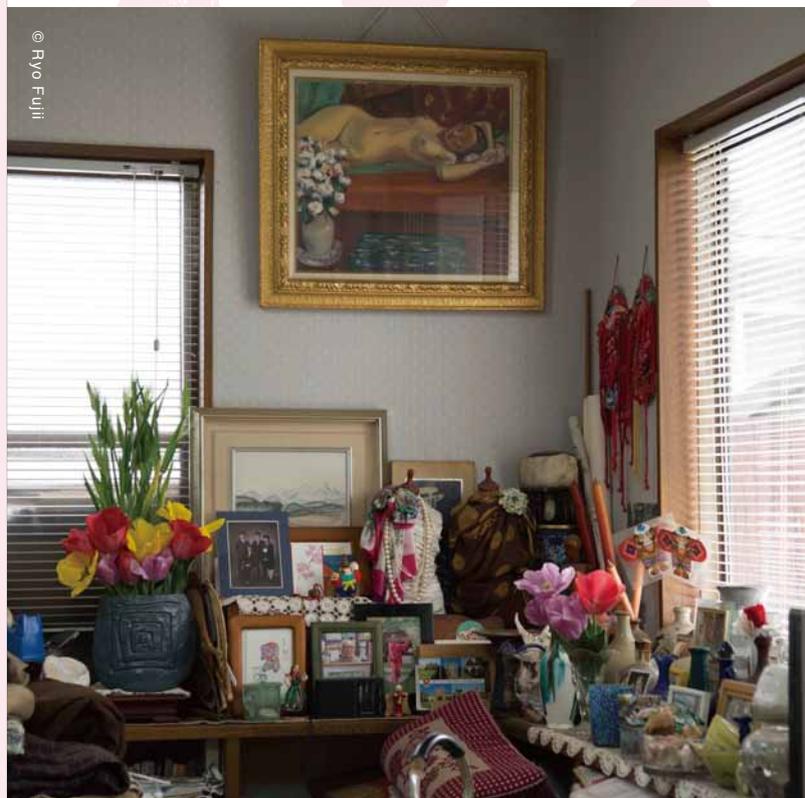
Contents

- 04 インタビュー 藤井龍(美術家)
Interview Fujii Ryo
- 08 プライベートな本棚
- 09 世田谷のおとなりさん
- 10 生活工房のイベント
Event Guide
- 15 生活工房のご案内
Access Guide

第1号の特集は、プライベート

プライベートとは個人的、私的なさまのこと。
いたってシンプルなその言葉の中に、どのような生活が
かかっているのでしょうか。

はじめに、2019年6月生活工房ギャラリーで開催予定の
「プライベート・コレクション展」にむけて、
企画制作の藤井龍さん(美術家)にお話を伺いました。
このプロジェクトを始めたきっかけは、ご自身のプライベートな
出来事が関係しているようです。



© Ryo Fujii



そのほか、P.8~9では

世田谷区内のショップ店員さんと区民の方が登場。
プライベートにまつわる2つのストーリーをご紹介します。

あなたとご近所さんとの出会いが、
季刊生活から生まれますように。



インタビュー

藤井龍 (美術家)

岡山から車で上京したというのに、ロングドライブの疲れも見せず終始笑顔の藤井さん。

photo: 杉本勝彦



世田谷区民から美術作品をお借りして開催する「プライベート・コレクション展」。

その企画制作をされる美術家・藤井龍さんに、
展覧会に先立ち、このユニークな企画を考えた経緯や
その意図について話を伺いました。

text: 杉本勝彦 photo: 藤井龍

——藤井さんは、現在岡山県を拠点に活動されていますが、自己紹介をかねてご自身の経歴について教えてください。

出身が岡山県で、大学進学とともに上京しましたが、大学生の時に留学したこともあって、いずれ海外で活動したいという思いもあり、卒業後は地元に戻りました。何かあれば東京に行けばいいし、世界地図で見れば東京も岡山もわずかしか離れていないので(笑)。今は結局、岡山で美術家として活動しています。彫刻科を卒業していますが、現在は映像や写真を使った作品制作やパフォーマンス作品のディレクションを行っています。

——地元はどんな所ですか？

岡山駅からローカル線で15分くらいの場所ですが、田舎とも都会とも言えないような場所です。今は実家から車で30分くらいの場所にスタジオを借りていますが、1日に2人くらいしか見かけないし、誰も見ない日も……。その2人も決まっています、どちらもおばあさん。スタジオの前でちょっと世間話をするような感じです。限界集落みたいな所で、そこに若者がやって来たので、すごく目立っていて、スタジオのまわりは田んぼで視界が開けているし、遠くからこちらの様子を見られている感じがしますね(笑)。それにネットよりも情報伝達の速度が速くて、独身だとバレたら、一瞬で近隣に広まって、それで「集落到嫁さん候補はいないか？」という話し合いをしています(笑)。



藤井さんのスタジオ

“野生の絵画”を絵画化する

——名古屋、そして岡山ですでに「プライベート・コレクション」を発表していますが、一般家庭で所有されている美術作品に着目したきっかけを教えてください。

中学2年の時、遊びに行った友達の家で、観葉植物に少し隠れるように風景画が掛けていました。その絵が理由もなくずっと気になっていて、高校でも大学でもそれが頭の片隅にありましたね。大学を卒業して実家に戻ったわけですが、しばらく使っていなかった僕の部屋で、高校の時に描いた油絵の前にハンガーラックが無造作に置かれていて「あっ!」と思ったんです。この感覚は友達の家で見た絵と一緒に。その時に、ずっと気になっていたのは絵の飾られ方だとわかりました。自分の経験に照らしてみると、パブリックな美術館で展示されている作品は“美術作品として見られたがっている”感じがするのですが、友達や自分の家の絵は、もはや風景というか、鑑賞する対象ではなくなっている。つまり、絵として見られていない絵、そういう絵のあり方が新鮮で、そこにプライベートなものを発見した実感がありました。そうやって偶然出合う“野生の絵”をコレクションしてプロジェクトにしようと思ったのが、「プライベート・コレクション」の始まりです。



プリンター裏に飾られた絵画作品

——“野生の絵”というのは面白い表現ですね。

そこからコンセプトを練っていったのですが、まず絵画や彫刻はもともと教会のような場所で建築の一部だったという歴史にたどり着きました。それが近代になり、建物と一体化していたものが離れて、自立していく。でも、友達の家ではそれが逆行して、建物の一部に戻って風景化しているように感じたんです。だから所有者にその絵について尋ねることで、絵を再認識してもらい、絵画を絵画化できるのではないかと考えました。それと、美術館に行くとき々「個人蔵」とキャプションに書かれた作品がありますが、美術館にある時以外は所有者の家で飾られているの?ということも気になっていて。そんな風にくつかのアイデアや疑問が重なることで初めてプロジェクト化に向かうのですが、その時点で岡山に帰ってから2年ほど経っていました。



Lilanberis, Alfred Fontvill de BREANSKI, 19世紀

美術作品にとって幸せなあり方は

—それから“野生の絵”を探しにいくわけですが、実際に作品のある家を訪ねると思わぬ発見もあったのではないですか？

そうですね。絵が目隠しのために使われていたり、彫刻がブックエンドになっていたり。美術作品が生活の中で鑑賞とは別の用途を与えられていて、それは僕が想定していなかったあり方でした。取材に行かせてもらって、一緒にちゃんと作品を鑑賞すると、所有者の意識が変わることもあって、そういう変化が面白かったりもします。でも、僕が帰った後に飾り直すとか、そういうことは多分しないですよ(笑)。



ブックスタンドになっていた彫刻

取材を始めた当初は、所有者に美術作品をきちんと認識してもらう目的が強かったのですが、忘れられているけど飾られているという状況は、絵や彫刻にとって一つの幸せな形かもしれないと思うようになりました。それは岡山の白石島で「プライベート・コレクション」の番外編をしてからですが、その島で取材をしていくと、同じ画家の絵が家々に飾られていたんです。なぜかという夏の間だけその島に滞在する日本画家がいたそうで、食事や寝床を提供してもらかわりに絵を描いていた。それからだいぶ年月を経て、飾られっぱなしの作品からその画家の存在を知ることができたりするのは、それはそれで美術の面白い残り方だとも思ったんです。白石島では絵を出発点に、所有者やその家族、そして画家へと調査対象が移っていきました。



タイトル・作者不明

美術作品と“生活”

—最後になりますが、生活工房ギャラリーで行う「プライベート・コレクション展」について内容や見どころを教えてください。

世田谷区内の家庭で飾られている作品の風景写真、そして実際の作品、所有者へのインタビュー映像の3点セットで展示され、今回は約20軒

の取材を予定しています。生活工房なので“生活”の視点で鑑賞されることが想定されますよね。絵画が写っているというよりも生活のワンシーンを撮った写真のように見えるなら、普段意識していない“生活”を意識するきっかけになるかもしれません。展示に来られない方も「そういえば、うちにも絵飾ってたな」と思い出したり、気づいたりして、自宅で作品鑑賞の機会が生まれたり嬉しいです。

(2018年12月24日、生活工房にて)

プライベート・コレクションとは、美術家・藤井龍さんが一般家庭に飾られた美術作品を撮影するプロジェクト。2015年から始まり、これまで全国各地で作品を発表してきました。時には所有者へのインタビュー映像や実物が組み合わされて発表される本作は、生活の中で忘れ去られていた作品に再び光をあて、「美術」の性質を問い直します。

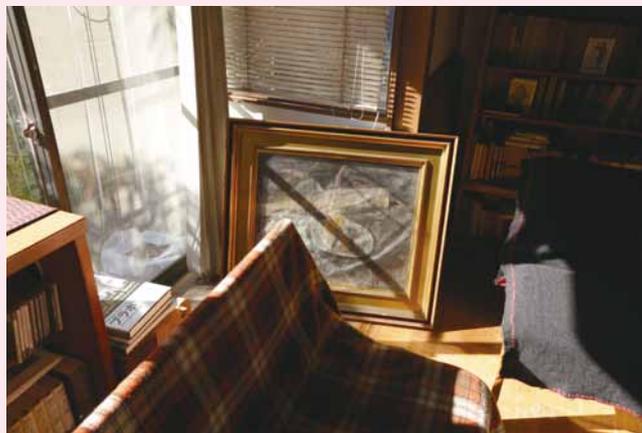
生活工房では、区民のご自宅に飾られた作品とその所有者による作品解説をもとに、生活の中にある「美術」にスポットをあてた展覧会を開催します。世田谷の個人宅に佇む、普段あまり目にする機会のないユニークな作品の数々をお楽しみください。

●プライベート・コレクション展

6.15 (sat) ~ 7.15 (mon) 9:00 ~ 21:00 入場無料
月曜休み(祝日はのぞく) 会場:生活工房ギャラリー

Artist Ryo Fujii started the project called *Private Collection* in 2015, photographing works of art that decorate the homes of ordinary people, and has exhibited this work all over the country. This work at times combines the actual artworks with clips of interviews with the owners, and puts a spotlight on works that have been forgotten in the midst of daily life and questions their nature as art.

This exhibit at Lifestyle Design Center is based on art that adorns the homes of local city residents and interviews with the owners and focuses on art in daily life. Please enjoy the many unique works from private homes in Setagaya that you normally wouldn't be able to see.



世田谷区内で個人宅を取材している様子(2019.1.18)
Collecting information at a private home in Setagaya.



藤井龍(ふじいりょう)

1987年生まれ。美術家。東京藝術大学卒業後、岡山を拠点に国内外の展覧会で作品を発表。主な展覧会に「For (Your / His / Her / My) Eyes Only」(2016 / 岡山県天神山文化プラザ)、「Earth Art Project」(2014 / インド・ラダック地方)など。
<http://ryofujii.com>

Fujii Ryo

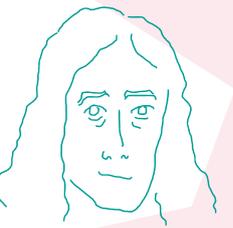
Artist. Born in 1987. Graduated from Tokyo University of the Arts. Exhibits works in Japan and abroad from his base in Okayama. Major exhibitions: For (Your/His/Her/My) Eyes Only in 2016 at the Tenjinyama Cultural Plaza in Okayama Prefecture, and Earth Art Project in 2014 in the Ladakh area in India.
<http://ryofujii.com>

コラム プライベートな本棚

世田谷区下北沢にある「古書ビビビ」の店長
徳川龍之介さんに
ご自宅の本棚の中から、
生活の一部になっている一冊を
紹介していただきます。



タイトル：昔日の客 出版社：夏葉社 (2,200円+税) ※本の函は自作



僕の本棚の中で特に思い入れがあるのは夏葉社という一人出版社が刊行した『昔日の客』という本です。これは大森にあった山王書房という古書店店主・関口良雄さんが、身の回りのことやお客様との印象深いエピソード、文豪との交わりの日々を書き綴った名著で、読むとまだまだ修行の足りない僕の心を引き締め、「もっと頑張ろう」と思わせてくれます。

初めて古書ビビビで扱った夏葉社の本がこの『昔日の客』で、以降すべての夏葉社の本をお店で仕入れています。夏葉社の島田さんとは共にお酒を飲んだり書店巡りをするくらいに関係になりました。更にこの『昔日の客』をピースの又吉さんがラジオで絶賛していたのを知った僕は「もし又吉さんが古書ビビビに来てくれて夏葉社の新刊『星を撒いた街』を買ってくれたらお礼にプレゼントしてみよう」と冗談めいた企みを話し合ったものですが、そこで奇蹟が起きて本当に又吉さんがその『星を撒いた街』を古書ビビビに買いに来てくださったのです。

『昔日の客』にこのような一節があります、「あの本はあそこから買った本、この本はあの人から買って来た本、と本を巡る思い出はその本を持っていた人達への思い出とつながって行く」、僕にとって『昔日の客』は内容だけでなくそれを巡るあれこれを思い出させてくれる大切な一冊なのです。



photo: 徳川龍之介



古書ビビビ

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 1-40-8 土屋ビル1階
昭和初期から昨日出た本まで幅広い年代、ジャンルの本を取り揃えています。
本を整理する際にはぜひご相談を。

連載コラム 世田谷のおとなりさん①



photo: 河内瑠璃

清水さん ある日のおにぎり

第1号に登場するのは、世田谷区経堂にお住いの清水さん。約10か月前から世田谷に住み、都内の会社で管理栄養士として働いています。この日は、彼女の地元、兵庫県朝来市の特産「黒大豆入り味噌」に漬け込んだ鮭を食材にして、ぜいたくなおにぎりをつくりました。

清水さん、小さなころは食がほそく、食べることにはあまり関心なかったそう。そんな彼女が「心と体をつくる食」の大切さを伝える仕事につくことになった、その理由を話してくれました。

幼い頃は、地元の自宅からスーパーへ行くのに車で20分…ハンバーガーショップもピザ屋さんもない山間の町で育ちました。彼女のお母さんは、ハンバーガー用のバンズを遠くの街から取り寄せたり、ピザ生地を手づくりしたりして、工夫しながらさまざまな料理を娘3人につくってくれたそうです。「あのとき、私の味覚は決まったと思うんです。たくさんは食べられなかったけれど、たくさん味のやさしさを知って、少しずつですが、食の世界に惹かれていきました」。大人になった今は、メニュー開発に取り組んだり、調理をしたりの忙しい毎日。もちろん、お仕事でおにぎりをにぎることもあるそうです。

今回は、一緒に暮らすシェアメイトのために。お母さんから届けられた地元の食材をふんだんに使ったおにぎりです。慣れた手つきで、あっという間にたくさんにぎった清水さんは、「おいしそうに食べているひとをみるのが好きなんです」といいながら、嬉しそうに笑いました。



清水さんのレシピ
鮭の切り身…2尾

A: 黒大豆入り味噌…大さじ3
酒・みりん…各大さじ1

のり…2枚
ごま…お好みで
シェアメイトにもらった新潟産のお米…2合

つくり方
Aを混ぜ合わせたものに鮭の切り身を
ひと晩漬け込む。
鮭を焼いて、炊き上がったごはん
に混ぜ込んでにぎる。
残ったAは、お味噌汁に。



小学生の
清水さん(左)

Exhibition

映像のフィールドワーク展

20世紀の映像百科事典をひらく

3.16 (sat) ~ 4.7 (sun) 月曜休み 11:00 ~ 19:00 入場無料

会場：ワークショップルームA・B / 生活工房ギャラリー

映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」が記録した生命の営みを、未来に向けて紐解く体験型の展覧会。

特別協力：公益財団法人下中記念財団

Fieldwork Video Exhibition

Opening the 20th Century *Encyclopaedia Cinematographica*

Closed on Mondays Admission Free

Venue: Workshop Room A・B, Seikatsu-Kobo Gallery

Experiential exhibition looking to the future and unraveling the inner workings of life recorded in the *Encyclopaedia Cinematographica*.

「仏教徒巡礼の踊り」(東チベット/チベット人/1957年) ©(公財)下中記念財団
Buddhist Pilgrim Dance (1957, Tibetan People, East Tibet) ©Shimonaka Memorial Foundation

関連プログラム「ECラボラトリーズ!!」

会場：ワークショップルームA・B

展示会場では、映像を巡って連日なにかが出会い、起こり、「実験」の痕跡が残されていきます。さまざまな「ゲスト研究員」が登場し、その日だけ上映される映像も。

参加費：無料 申込：不要、当日直接会場へ

●音を出してみる実験①

映像に耳を澄ます。音のない映像に音を聞く。思い巡らす。

4.2 (tue) 14:00 ~ 15:30

ゲスト研究員：松村拓海(フルーティスト、作曲家)

●粘菌ってどんな生きもの?

4.3 (wed) 14:00 ~ 15:00

ゲスト研究員：増井真那(変形菌研究一筋10年以上の高校生)

●音を出してみる実験②

みんなのリズムで一つの音楽をつくる、「バリの音の世界」

4.5 (fri) 14:00 ~ 15:30

ゲスト研究員：増野亜子(自ら演奏する民族音楽者)

●映像アーカイブの歴史と現在について聞く。

4.6 (sat) 14:00 ~ 15:30

ゲスト：原田健一(新潟大学地域映像アーカイブ研究センター)、
岡田一男(東京シネマ新社)

※詳細は生活工房ホームページをご参照ください。



「バリの音楽のリズム型」(バリ島 カランガセム地区/1973年)
Balinese music rhythm type (1973, Karang Asem, Bali) ©Shimonaka Memorial Foundation

Event

手づくりアートの“のみの市” 世田谷アートフリマ vol.31

4.20 (sat)・21 (sun) 11:00 ~ 17:00 入場無料

会場：セミナールームA・B / ワークショップルームA・B

生活工房ギャラリー / 市民活動支援コーナー

2日間で延べ160組のアーティストが集まる“ものづくりの祭典”。

手作りの雑貨やアクセサリ、クラフト作品の販売や

その場で体験できるワークショップもあります。

Handmade Art “Flea Market” Setagaya Art Flea Market, vol.31

Admission Free

Venue: Seminar Room A・B, Workshop Room A・B, Seikatsu-Kobo Gallery, Community Corner

160 artists will gather for two days for this festival of handmade items.

Visitors can purchase handmade goods, accessories, and crafts, as well as participate in hands-on workshops.



Exhibition

世田谷線にのって展

4.27 (sat) ~ 5.26 (sun) 9:00 ~ 20:00 入場無料

会場：生活工房ギャラリー

下高井戸〜三軒茶屋を結ぶ東急世田谷線は開業50周年を迎えます。

地域と世田谷線との歴史を振り返りながら、沿線を旅するように巡る展覧会です。

ワークショップ「幸運の招き猫電車のペーパークラフトをつくろう」

5.11 (sat) ①10:30 ~ 12:00 ②13:30 ~ 15:00 ③16:00 ~ 17:30

会場：ワークショップルームA

東急の人気車両をペーパークラフトで再現。

完成した作品は、電車の模型に取り付けて走らせます。

講師：河上勇(そふと電鉄クラフト株式会社)

対象：一般(小学3年生以下は保護者同伴) 参加費：800円/各20名(先着)

申込：3月25日10:00より電話かメール(P14参照。年齢も明記)にて

Riding the Setagaya Line

Admission Free

Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

The Tokyo Setagaya Line that links Sangenjaya and Shimotakaido is celebrating 50 years of operation. This exhibition takes you on a tour along the tracks as it looks back on the history of the area and the Setagaya Line.



風景に彩りを添える2両の電車
 Two-car train adds color to the landscape.

photo: 大塚勝利

Seminar

第44回世田谷おはなしネットワーク講演会
わらべうた絵本と私～ましませつこさんの世界

6.13 (thu) 10:00 ~ 12:00

会場：セミナールームA・B

童歌は子どもの大切な文化的財産のひとつ。日本の伝統的な色調とモダンな作風が特徴の絵本作家ましませつこさんに「わらべうた絵本」への思いを伺います。

講師：ましませつこ（絵本作家） 主催：世田谷おはなしネットワーク

参加費：100円 / 20名（抽選）

申込：5月31日（必着）までに往復ハガキ（P14参照）にて

44th Setagaya Story Network Lecture
Nursery Rhyme Picture Books and Me: The World of Setsuko Mashima

Venue: Seminar Room A・B

Nursery rhymes are cultural treasures that mean the world to children. Picture book artist Setsuko Mashima is known for her use of traditional Japanese color tones and modern artistic styling. We asked her to share her thoughts on nursery rhyme picture books.



『ととけっこう よが あげた』（こばやし えみこ：案 ましま せつこ：絵）こぐま社
Cock-a-doodle-doo! The World is Awake! Written by Emiko Kobayashi,
illustrated by Setsuko Mashima, Koguma Publishing.

Exhibition

プライベート・コレクション展

6.15 (sat) ~ 7.15 (mon) 9:00 ~ 21:00 入場無料

月曜休み（祝日はのぞく）

会場：生活工房ギャラリー

個人宅に飾られた美術作品をお借りして開催する展覧会。写真や所有者へのインタビューもあわせて紹介し、生活の中にある「美術」に目を向けます。企画制作：藤井龍

※詳細は5月中旬に生活工房ホームページでお知らせします。

Exhibition: Private Collection

Closed on Mondays (Except 15 July 2019) Admission Free

Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

An exhibit of art borrowed from private homes. This exhibit focuses on art that exists in daily life via photographs and interviews with owners.



photo: 藤井龍

Event

火と人の上映会

vol.1「火の星に生きる」 / vol.2「火と食べもの」

人の生活は古来、火とともにあった——。火と人が紡いできた物語を、テーマごとに集めた記録映像から探る連続上映会（全4回。vol.3, 4は本年12月に開催）。共同企画制作：といのきデザイン事務所

参加費：各回500円（資料・ドリンク代） 定員：各回40名

申込：不要、当日直接会場へ

vol.1「火の星に生きる」

6.22 (sat) 14:00 ~ 17:00 会場：ワークショップルームA

上映作品 = 「火山が育む海」（2011年 / 日本語字幕 / BBC制作『サウス・パシフィック』より）、『太平洋の中の新島 火山島・新島の成り立ち』（1997年 / 民族文化映像研究所）ほか計5作品

vol.2「火と食べもの」

6.29 (sat) 14:00 ~ 17:00 会場：ワークショップルームA

上映作品 = 『椿山 焼畑に生きる』（1977年 / 民族文化映像研究所）、『フクロネズミの料理と食事』（1976年 / 西ニューギニア・ファ族 / エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ）、ほか計7作品

Film Screening: Fire and Humans

vol.1 Living on the Fire Planet, vol.2 Fire and Food

Venue: Workshop Room A

Humans have lived together with fire since ancient times. A film series of video recordings collected on various themes of the story spun by fire and humans. (In 4 volumes. Volumes 3 and 4 will be shown in December of this year.)



「水草からの塩の採集」
（ブラジル・スヤ族 / 1960年 / エンサイ
クロペディア・シネマトグラフィカ）
©（公財）中記念財団

Gathering salt from aquatic plants.
(1960, Suya Tribe, Brazil,
Encyclopaedia Cinematographica)
©Shimonaka Memorial Foundation

News

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”

《生活デザイン》部門 作品（企画）募集

「生活」をテーマにしたオリジナル作品（立体、平面、ファッション、映像、ミクストメディア等）の展示企画を募集します。

※詳細は4月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。

6th Setagaya Art Award: HISHOU

Seeking works (plans) for the category of "Lifestyle Design"

Taking applications for exhibition plans of original works on the theme of Lifestyle (three-dimensional, flat plane, fashion, video, mixed media, etc.)



第4回受賞作品
「CASA PROJECT」
Winner of the 4th Setagaya Art
Award CASA PROJECT
photo: 須賀浩二

News

穴アーカイブ:an-archive
世田谷クロニクル1936-83

一般の方にご提供いただいた計84巻の8ミリフィルムをデジタル化して特設サイトで公開中。移り行く昭和の世田谷をお楽しみください。

http://www.ana-chro.setagaya-ldc.net



an-archive
Setagaya Chronicle 1936-83

84 reels of 8mm film have been digitized and are publicly available on a special website. Enjoy the changes of Setagaya during the Showa period (1926-1989).



「あこがれの大島へ」昭和11年6月6日
Longing for Oshima, June 6, Showa 11 (1936)

Seminar
朗読講座 豊かなことばの世界

- ①水曜講座(午前・午後)〈名作を読む〉
4.10(wed)・17(wed)・24(wed)・5.8(wed)
各回10:30~12:30 / 13:30~15:30
講師:岩井正(NHK日本語センター) 作品:山本一力著『あかね空』
- ②木曜講座(午後)〈はじめての朗読〉
4.4(thu)・11(thu)・25(thu)・5.9(thu) 各回13:30~15:30
講師:秋山隆(NHK日本語センター) 作品:谷崎潤一郎著『細雪』
- ③金曜講座(午後)〈はじめての朗読〉
4.5(fri)・12(fri)・26(fri)・5.10(fri) 各回13:30~15:30
講師:金野正人(NHK日本語センター)
作品:芥川龍之介著『蜘蛛の糸』

会場:セミナールームA

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。
NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料(4回分):一般20,500円、せたがやアーツカード会員18,500円 / 15名(申込先着) 問・申込:(一財)NHK放送研修センター
TEL 03-3415-7121(受付時間9:00~18:00)
HP http://www.nhk-cti.jp/

Recitation Course A World of Abundant Words

- ① Wednesday Course (morning - afternoon): reading masterpieces
 - ② Thursday Course (afternoon): beginners recitation
 - ③ Friday Course (afternoon): beginners recitation
- Venue: Seminar Room A

ワークショップ/セミナーの申込方法

- 電話 03-5432-1543
 - 往復ハガキ/メール[希望イベント名・希望日時・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、下記宛先まで]
- ハガキ:154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房
メール: info@setagaya-ldc.net (件名に希望イベント名を明記)

生活工房は

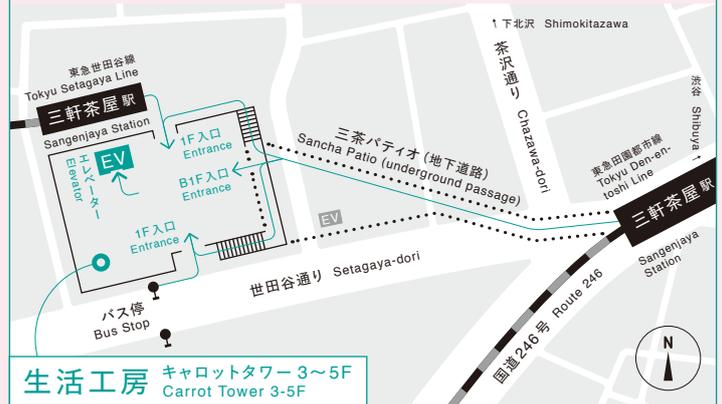
世田谷区が設置したユニークな文化施設です。
デザイン、文化、環境などをテーマに、
展示やイベントを開催しています。

また、コミュニティ・キッチンをはじめ、
展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに利用できる
部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is

a unique cultural facility established by Setagaya city.
Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.

We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops,
seminars, and meetings available to rent.



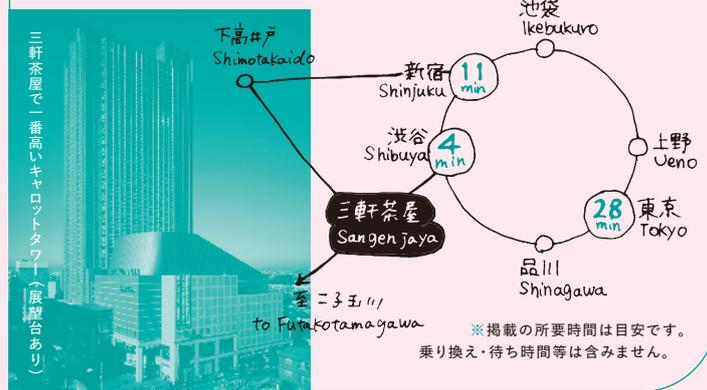
生活工房 キャロットタワー 3~5F
Carrot Tower 3-5F

アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口(東急ストア入口の右隣)に入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: located near the Sangenjaya Station stop



季刊生活 創刊号

発行日:2019年3月15日
編集:生活工房 石山那緒子
特集インタビュー・編集協力:杉本勝彦
デザイン・編集協力:牧寿次郎
翻訳:株式会社インターブックス
印刷:三永印刷株式会社
発行:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly: SEIKATSU 1

Issue date: March 15, 2019
Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama
Interview, Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto
Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki
Translation: Interbooks, Inc.
Printing: SANEI PRINTERY CO., LTD.
Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、
そこから、何が読めるでしょうか？

何もないようで、いつも何かが起きている
季刊生活はあなたと誰かの日常を、
行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another,
what, then, would you discover?

It may feel like nothing,
but something is always happening.
Seikatsu Quarterly is like a bulletin board,
traveling back and forth between your daily lives.

お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター
生活工房

〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1
キャロットタワー
Tel 03-5432-1543
Fax 03-5432-1559

Contact Lifestyle Design Center
Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation
Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004



<http://www.setagaya-ldc.net>



↑生活工房のホームページでは、
キッチンフェアリーのクラシーとカワルンが
さまざまな企画をレポートしています。
ぜひ、こちらもご覧ください。



クラシー(右) カワルン(左)
生活工房ワークショップルームA・
コミュニティキッチンをめぐりに、
生活工房内をたどいながら
探検している妖精。
おもしろそうなイベントがあると、
ふわふわと姿をあらわします。